

設立年代の異なる NGO が織りなすネットワークの相違 — つながり方と価値観に着目した 2 分類の比較 —

市川 斉

日本において NGO（民間国際協力団体）は、主に第 2 次世界大戦後から設立されるようになった。1980 年前後のインドシナ難民の発生、1990 年代の緊急人道支援の活発化や国際的なキャンペーンの推進、日本においては非営利組織に対する法人格の付与や NGO への補助金制度が創設され、その中で社会的な認知度が上がったことにより、1980 年から 20 年間の間に多くの NGO が設立され活動を開始した。そして、2000 年代に入り、非営利セクターにソーシャル・エンタープライズが出現したことにより、NGO においても新しいタイプの団体が見受けられるようになった。

本研究の目的は、先行研究とプレ調査で明らかになった 2000 年頃を境にした NGO 組織の設立年の違いにより、他の組織とのネットワークにどのような違いが見受けられるのか、特に、目に見える特徴として、NGO という組織を取り巻く他組織とのつながり方と、目に見えない特徴として、その際 NGO が重視する価値観に焦点をあて、どのような違いがあるのかを明らかにすることである。

研究課題として、2 つの課題を設定した。課題 1 は『2000 年以前設立 NGO』と『2000 年以降設立 NGO』では、他組織とのつながり方にどのような違いがあるのだろうか』であり、研究課題 2 は『2000 年以前設立 NGO』と『2000 年以降設立 NGO』では、NGO がネットワークを展開する際に重視する価値観にどのような違いがあるのだろうか』である。したがって、調査では各団体のつながり方やその際に重視する価値観に着目した。調査対象は、日本で設立した NGO の経営層・リーダーとし 2000 年以前に設立した NGO から 5 名、2000 年以降に設立した NGO から 5 名の合計 10 名である。

調査結果を分析したところ、以下のような違いがあることが明らかになった。まず、設立時のつながり方の違いは、「2000 年以前設立 NGO」については、一部の支援者・関係者を除き、団体設立を支援するような中間支援組織の存在が無いことが確認された。一方、「2000 年以降設立 NGO」は、行政や企業の他セクターの支援、起業や事業創出をサポートするためのインキュベーションを支援する中間支援組織の存在が確認された。また、現在のつながり方については、「2000 年以前設立 NGO」と「2000 年以降設立 NGO」は、主としてそれぞれ別々の他組織や異なる中間支援組織とつながる傾向がみられることを確認できた。

次に、ネットワークの際に NGO が重視する価値観については、「2000 年以前設立 NGO」は、外部環境の変化への対応は「2000 年以降設立 NGO」と比べて弱いながらも、長年培ってきた伝統的な価値観を重視しその姿勢を貫き通した。そのことを通して、NGO セクターの可能性を切り拓き、外務省や他セクターとの関係性をつくり、日本社会に NGO の信頼を構築したことが見て取れた。一方、「2000 年以降設立 NGO」は「2000 年以前設立 NGO」と比べて外部の環境の変化に敏感に対応し、特に、インターネットにおける Web2.0 時代の変化にも素早く対応することにより、ネットワーク形成にも反映していることが伺われた。このことは、ネットワーク形成に機動性、先駆性、変革性が兼ね備えた価値観として重視にしているものと考えられる。また、「2000 年以前設立 NGO」が切り開いてきた NGO の歴史や長年守り続けてきた哲学について、「2000 年以降設立 NGO」が学び、称賛している側面があることが明らかになった。

本研究を通じて、時代の変化に応じて「2000 年以前設立 NGO」が、「2000 年以降設立 NGO」が示すようなつながり方や重視する価値観に単純に移行するものでなく、良いところを取り入れながらも、自団体が団体設立以来守ってきた固有の価値観を守り、独自のネットワークを形成している可能性が示された。一方「2000 年以降設立 NGO」は、環境変化に対応しながら、従来のやり方に縛られない、先駆性、変革性を大切にして機敏なネットワーク形成をいとわないということがうかがえた。

以上より、設立時の年代の違いによって NGO が織りなすネットワークは異なっており、両者とも他者の良い点を評価しながらも、それぞれが異なった特徴を持つということを仮説的に提言することができると思う。

（指導教員：岸真理子）